

一昨年四月に、本学に本格的な多分野交流施設として、アゴラ・グローバルが竣工し、その中心施設であるプロメテウス・ホールが様々な用途で使われるようになった。全体の施設名に含まれる「アゴラ」は、古代ギリシャにおいて民会が開かれ、商品の売買がおこなわれる市場でもあった広場を指し、劇場名の「プロメテウス」はいうまでもなく、ゼウスの元から火を盗み出し人間に文明の源をもたらしたギリシャ神話中の神の名である。本学のアゴラ・グローバル、プロメテウス・ホールにおいても教員・学生が集い、知と文化の交流がおこなわれる広場として機能していつてもらいたいと願っている。

本学では専攻語として学ばれている二十六言語による「語劇」が大学祭の期間に催され、生きた外国語学習の場としての意味をもつと同時に、地域の人々も多く観覧し、それぞれの言語とそれが話されている国々の文化や歴史を知ってもらう貴重な機会となっている。これまでは大教室に臨時にステージを設置し、そこで上演されていたが、一昨年からはプロメテウス・ホールで上演されるようになった。プロメテウス・ホールは五五〇名を収容し、音響・照明の設備も整った本格的な劇場であり、それだけに語劇を上演する学生も、外国語学習の発表の場であるだけでなく「劇」を見せる機会として、これまでよりも力を入れて練習し、舞台に立っているように見える。

プロメテウス・ホールはもちろん劇の上演に限らず、シンポジウム・講演会の開催や、通常の授業にも使われ、本学の文化的プレゼンテーションの水準向上に大いに役立っている。本研究所でも、一昨年は「語りと劇による『源氏物語』」、昨年は「子規 六尺の天地」という二つの劇を上演し、多くの一般市民を含む観客を魅了した。演奏家を招いてコンサートを催すこともあり、文化研究を軸とする本研究所にとっては、活動を後押しする施設の登場といえるだろう。

ところでここで「一昨年」という形でホールの紹介を記しているのは、昨年「総合文化研究」の刊行が投稿論文の不足によって成らなかったためでもある。そのことは大いに反省しなくてはならず、今後は研究論文の発表という研究者の基本を押さえながら、多角的な活動を展開していきたいと考えている。